

## 2023年度 町田市動物愛護推進連絡協議会 確認用議事要旨

日時	2024年2月14日（水）14:00～15:30
場所	町田市保健所中町庁舎 研修室
出席者	町田市動物愛護推進連絡協議会 委員 大滝委員（会長）、羽太委員、大川原委員、森本委員、服部委員、齊藤委員、河合委員（順不同）
欠席者	青木委員
事務局	町田市保健所 林課長、齋藤係長、西澤担当係長、秋山担当係長、鈴木、西島
傍聴者	0名

### ■資料

- 【資料1】 町田市動物愛護推進連絡協議会 委員名簿
- 【資料2】 町田市動物愛護推進計画
- 【資料3】 町田市動物愛護推進計画に基づく施策・取組一覧
- 【資料4】 町田市動物愛護推進計画に基づく取組の総括

### ■議事

#### 1 開会 挨拶

- (1) 所長挨拶
- (2) 会長の選任
  - ・佐藤前会長が退任されたため、互選により会長を選出。
  - ・大滝委員（新会長）から挨拶。

#### 2 町田市動物愛護推進計画に基づく取組の総括（事務局から説明）

- ・計画期間6年間の総括として、取り組んだことや成果、課題、今後取り組んでいくことを報告（資料3：町田市動物愛護推進計画に基づく施策・取組一覧、資料4：町田市動物愛護推進計画に基づく取組の総括）。

#### 【委員からの質問・意見】

- （委員）メディアで犬に噛まれたという事案がかなり頻繁に報道されている。町田市保健所管内での状況はどうか。  
⇒（事務局）咬傷事故（犬に噛まれた事故）は、保健所に事故の届出を出す必要があり、今年度12月31日現在で事故件数は13件（毎年大体20件前後）となっている。

ただ、これは保健所に報告があった件数なので、実際にはもっと多いのではないかと考えている。また、先日アメリカ全土で咬傷事故が報告されている犬種が放浪していると通報が入った。緊急事態ということで、生活安全部局とも連携して情報共有して捜索をしたところ最終的には無事に事故もなく保護できたということがあった。その後飼い主宅に訪問して、再発防止の対策など話をし、市の方でも引き続き注視していくということで話をした。

・(委員) 偏見があってはいけないと思うが、アメリカでもすごく問題になっている犬種だと思うのでそれが町田市内にいるとなるとちょっと注意していかなければいけないのかなと感じる。

・(事務局) 咬傷事故に関しては、色々なパターンがあり、飼い主に対するマナー啓発も重要だが、飼っていない人や子供に向けて犬の特性などを啓発していくことも重要であると認識している。

・(委員) 今年9月に保健所で動物ふれあい教室を開催した。動物愛護の情操教育と咬傷事故防止と感染症対策を基本に親子を対象に話をした。子供への普及啓発という点で、こういうのも例えば小学校低学年で1コマでも授業を設けられたらいいなというのを感じる。

・(委員) 獣医師会では学校飼育動物(ウサギ・チャボなど)を飼っている学校に毎年1回は訪問に行き、指導や飼育委員の子供たちに話をしている。それとは別に試験的に犬を連れて行ってのふれあい教室というのも2校でやってみた。非常に好評であったため、件数を増やしていきたいと考えている。

・(委員) 動物愛護推進員の方でも東京都の動物教室というのをやっている(町田市の学校へも通達を出している)が、生体は連れていけないため、ぬいぐるみを使って子供たちに話をしている。色々なところでこういった活動ができればと思っている。

・(委員) 保健所ではこういった子供たちへの啓発というのは企画しているのか。

⇒(事務局) 以前に学校へ企画を提案したこともあったが、学校のカリキュラムの話であったりとか、子供のアレルギーへの配慮であったりなど色々考慮しなければいけない部分も多く、中々全校で同じものをとというのは難しい面がある。そういった中でどういった切り口で声掛けをしていくかなど引き続き検討をしていきたいと考えている。また、それとは別に咬傷事故に関して事故の発生届を出さなければいけないということを知らない飼い主もいるのではと考えているため、今年発行のペットタウンまちだミニの1面に咬傷事故について掲載し、犬の飼い主さんにも気を付けてもらうための普及啓発というのも行っている。

○(委員) 飼育不可のURとかJ K Kなどの団地で隠れて飼っているケースが多く、少しでも今飼っている人が終生飼養できるような形にするにはどう進めたら良いかと考えている。

⇒（委員）団地の組合とかもあったりすると思うが、中々その意思疎通が難しかったりなど、意見が合わないこともある。

（委員）そういった所で黙って飼って増えてしまう、というケースが見受けられる。地方で飼い主のいない猫の活動を行なっており相談を受けるが、そういった方たちに情報がいていないと感じる。増える前にせめて不妊手術しておけばという案件がすごくある。新聞やデジタルの情報が届かないそういった方たちに情報を届けるのは本当に難しいと感じるので、生活保護などの福祉に関する行政サービスの人たちに保健所の取り組みについて情報共有していただきたいと思う。

・（事務局）関係機関、特に福祉の部門との連携をしていかなければというところで、今年度高齢者支援センターの相談員の連絡会の場で保健所の動物担当の業務についてなどの話をした。まずは普段顔をあわせる相談員の方だったりケースワーカーの方などそういった方を切り口に色んな支援を行っていければという風に考えている。

### 3 情報交換

○能登半島地震による被災地派遣の報告（事務局）

・保健師とともに5泊6日で石川県金沢市にあるいしかわ総合スポーツセンターに行き、事務担当として補佐を行った。

・この施設は1.5次避難所として利用されている施設で、1次避難所と2次避難所の間でいわゆる自立して生活するのが難しい、誰かしらの介助が必要な方たちが利用されていた。

・ペットの避難施設として、建物の横にトレーラーハウスが設置されていた。犬用猫用で分けていて、ペットシートやドッグフードなどペットを飼育するための必需品は備え付けられていたが、1.5次避難所に入っている方は基本自立できない方が主なためか、過去にも1頭くらいしか入らなかったと聞いている。

#### 【委員からの質問・意見】

・（委員）2次避難所にはこういったペット専用の施設はあるのか。

⇒（事務局）スクリーニングをしてOKをもらったら、ホテルだったり皆さん色々な避難先がバラバラになるので、もしかしたら受け入れ可能なところや車の中で面倒みたりなどあるのかもしれないが、そこまでは確認できなかった。

・（委員）トレーラーハウスにはどれくらい犬猫が収容できるのか。

⇒（事務局）ブースでいくと、犬が10くらい、猫が14くらいあるかと思う。

・（委員）町田市の場合の避難施設では基本的に避難者と動物は別個という形になっている。基本的にはジャングルジムのところにブルーシートをかけたとかになるので、誰もいかないのではと思う。こういうトレーラーハウスでもあればいいと思う。

・(委員) トレーラーハウスは人が避難しているところからどれくらい離れているのか。

⇒(事務局) 体育館のすぐ裏。基本的には飼い主がご自身で世話しなければいけないので。

・(委員) 東京都ではこれくらいの体制はできているのか。

⇒(委員) 全くできていない。避難者数に対して人数が圧倒的に少ない避難所もあるので。

⇒(委員) 避難所の形態としては、実際の被災地の最初に避難する場所とはだいぶ質が違うかなと思うが、こういうところからヒントをもらって市の方でも対策を進める必要がある。

・(委員) メディアで石川県獣医師会の会長が出ており、被災が少なかった各病院でペットの預かりをしていたが、その電話対応で大変だったと言っていた。以前町田でも獣医師会で災害時に各病院で何匹預かれるのかという話もあったので、改めて近隣の病院とも協力しつつそういった情報を集約した方がいいのかなと思う。

・(委員) 被災地の辺りでは放置された犬猫も一定数いるのではないかなと思う。そういったところの対策も考えなければいけないと感じる。

⇒(委員) 平時に当たり前にしつけて飼うとか、不妊去勢手術とかをして室内で飼うなどの平時の準備が大切。

・(委員) 在宅避難ができるような体制を人間も動物もとれるようにしておかないといけないというのは思う。

・(会長) 今回の地震がきっかけで、こういう災害時の対応というのが獣医師会など色んな会合の場で話題になっているので、色々と考えていかなければいけないと感じる。

#### 4 その他(事務局から説明)

閉会(事務局)